

## 父親の子育てによる父子関係への影響

永井 暁子

(財団法人 家計経済研究所 次席研究員)

### 1. はじめに

1970年代から「父親不在」は人々の関心を呼んでいた。この「父親不在」という問題は、1つは社会変動によって母親役割とは異なる父親役割が喪失したのではないか、また長時間労働によって、父親が家庭にいる時間が減少するにつれ家庭の中での父親の役割あるいは存在感が喪失したとする二側面から語られていた(石川実 1994)。戦前、もしくは近代化以前の父親役割そして父親イメージと実態がいかなるものであったかなど、父親に関する議論は多くの人々の関心を呼び、あるべき父親像について議論がなされた。しかし、石川によれば、過去の父親役割や父親像がいかなるものであれ、戦後の社会変動により父親と母親が同質化してくるのは当然の流れである。このような父親論における議論の中で、性別役割分業が明確であり、労働時間の短縮が進まない日本において、主に父親不在論は後者の不在論を意味し、父親の育児、父子間のコミュニケーション、父子関係の良好度などが分析されている。父親の育児、子どもへのかかわりは、母親の育児不安を減少させ、子どもの発達へのプラスの影響があるなど肯定的に考えられているのである。また、冬木(1997)は、父親自身がいかなる子育て観、父親イメージを持っていたとしても、それとは関係なく子どもとのかかわり合いが多いほど、つまり「優しい父親」を行う父親ほど、父親自身の子育て満足度は高いとし、石川周子(2003)はAmato(1994)と同様に父親の支援(子どもの気持ちを分かちあえる)が子どもの抑うつ傾向(デイス

トレス)を低下させるとしている。

これまで行われてきた父親もしくは父子関係に関する多くの研究では、父親あるいは子どものどちらか一方を対象とした調査データから分析されることが多かった。しかし、ダイアド(二者関係)の研究が、さらにトライアド(三者関係)の研究が必要であることはかねてより指摘されている(たとえば、杉岡 1984)。そして、父親の「役割遂行に関する認知度」が父子両面から研究されねばならない(石川実 1994)。とりわけ、1990年代に入り両親の夫婦関係と子どもの抑うつ度との関係が指摘され<sup>1)</sup>、親子関係や子どもの発達と夫婦関係の関連に注目が集まっている(Fincham 1998; 伊藤 1999; 菅原他 2002; 前出・島谷 2004)。菅原らによれば、父親の「暖かい養育態度」(子育てにかかわり、子どもへの情緒的なサポートを重視する態度)は夫婦間の情緒的な絆と関連し、その結果、子どもの抑うつ傾向を低下させているとしている。

### 2. 目的と方法

本稿では、日本で長らく問題視されている「父親不在」が具体的にはどのような問題として存在しているのかを把握するために、財団法人家計経済研究所が1999年に実施した「現代核家族調査」データの父、母、子それぞれの回答を用いて、実態としての、あるいは親や子どもの目からみた父子関係と母子関係に関する認識の相違、子どもの性別による親子関係の違い、子どもの成長(学齢)による親子関係の変化について分析を行う。

図表-1 父子関係と母子関係の違い——親の回答、子の回答 上段:%, 下段:ズ<sup>2</sup>値

父、母への質問項目/子への質問項目	親の回答		子の回答	
	父子関係 <sup>1)</sup>	母子関係 <sup>2)</sup>	父子関係	母子関係
その子は私の心配事や悩みを聞いてくれる ／お父さん・お母さんの心配事や悩みを聞いてあげる	17.4	53.8	24.2	45.3
	162.280**		55.318**	
その子は私の能力や努力を評価している ／お父さん・お母さんをえらいと思う	59.4	66.1	80.9	85.2
	5.526*		n.s.	
その子は私のすることに文句や小言をいう ／お父さん・お母さんはあなたにいろいろと面倒をかける	26.9	34.3	27.6	27.7
	7.285**		n.s.	
その子は私にいろいろと面倒をかける ／お父さん・お母さんは文句や小言をいう	24.6	43.1	58.0	71.8
	42.193**		23.344**	
その子というといライラすることがある ／お父さん・お母さんというといライラすることがある	14.3	29.8	41.5	42.2
	39.665**		n.s.	
私はその子の心配事や悩みを聞いてあげる ／お父さん・お母さんは心配事や悩みを聞いてくれる	61.7	85.6	62.9	85.0
	83.295**		70.800**	
私はその子の能力や努力を評価している ／お父さん・お母さんは能力や努力をほめてくれる	89.5	90.8	78.3	82.9
	n.s.		3.904*	

\* p &lt; .05, \*\* p &lt; .01

注:1) 父の回答

2) 母の回答

3) 父、母用調査票の選択肢は「あてはまる」(=1)～「あてはまらない」(=4)であるが、「あてはまる」・「ややあてはまる」(=1)、「あまりあてはまらない」・「あてはまらない」(=0)とした。子用の調査票の選択肢は、「はい」(=1)、「いいえ」(=2)であるが、「はい」(=1)、「いいえ」(=0)とした。以下、同様。

その上で、どのような条件が父子関係に違いをもたらすのかを検討する。具体的には、前節でふれた現在の社会で必要とされている「優しい父親」、つまり、暖かい養育態度を父親が持っているか、それは子どもから認識されているか、そして父親の暖かい養育態度に対する子どもの認識には、どのような要因が影響しているのかを明らかにするのである。

親子関係項目として「現代核家族調査」で用いた項目は、「その子は私の心配事や悩みを聞いてくれる／お父さん・お母さんの心配事や悩みを聞いてあげる」「その子は私の能力や努力を評価している／お父さん・お母さんをえらいと思う」「その子は私のすることに文句や小言をいう／お父さん・お母さんはあなたにいろいろと面倒をかける」「その子は私にいろいろと面倒をかける／お父さん・お母さんは文句や小言をいう」「その子というといライラすることがある／お父さん・お母さんというといライラすることがある」「私はその子の心配事や悩みを聞いてあげる／お父さん・お母さんは心配事や悩みを聞いてくれる」「私はその子の能力や努力を評価している／お父

さん・お母さんは能力や努力をほめてくれる」である。父親と母親に対しては、その対象子について回答してもらっている。子どもは、母親に対して、父親に対して、それぞれ回答してもらっている。この中の悩みを聞いたり、能力や努力を高く評価したりという項目は、情緒的サポート項目であり、逆に文句をいったり、迷惑をかけるという項目はネガティブ・サポート項目としておいた。

まずは親子関係を全体的にみていくために、親子関係項目すべてを父の回答、母の回答、子どもの回答について比較し、最終的には子どもの回答による父親の「暖かい養育態度」の認識に対して、父親の子育て、父と過ごす時間、夫婦関係の何が関連を持っているのかを明らかにする<sup>2)</sup>。父親の子育てといっても、現在関わっていることが重要なのか、子どもが小さいときに子育てをしていたことが重要なのかを調べるために、現在の子育て、対象子が0～2歳の時の子育て、対象子が3～6歳の時の子育てとの関連を、子どもが父親と過ごす時間については、家族全員での朝食の回数・夕食の回数、父親の帰宅時間、就寝前に父親が誰と過ごすか、との関連を、そして父親と母親

図表-2 子の性別による父子関係と母子関係——親の回答、子の回答 (%)

	父子関係		母子関係	
	父の回答	子の回答	母の回答	子の回答
その子は私の心配事や悩みを聞いてくれる／お父さん・お母さんの心配事や悩みを聞いてあげる				
息子	17.9	27.1	49.5	40.5
娘	17.0	21.0	58.5	50.4
$\chi^2$ 値	n.s.	n.s.	4.553*	5.524*
その子は私の能力や努力を評価している／お父さん・お母さんをえらいと思う				
息子	60.3	79.9	59.9	82.8
娘	58.3	81.9	72.8	87.8
$\chi^2$ 値	n.s.	n.s.	10.403**	n.s.
その子は私のすることに文句や小言をいう／お父さん・お母さんはあなたにいろいろと面倒をかける				
息子	21.0	28.9	29.6	30.8
娘	33.2	26.2	39.5	24.4
$\chi^2$ 値	10.558**	n.s.	6.137*	n.s.
その子は私にいろいろと面倒をかける／お父さん・お母さんは文句や小言をいう				
息子	24.5	57.4	43.2	73.6
娘	24.7	58.7	43.0	69.7
$\chi^2$ 値	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.
その子といるとイライラすることがある／お父さん・お母さんといるとイライラすることがある				
息子	16.6	36.7	27.8	40.7
娘	11.8	46.7	32.0	43.9
$\chi^2$ 値	n.s.	5.785*	n.s.	n.s.
私はその子の心配事や悩みを聞いてあげる／お父さん・お母さんは心配事や悩みを聞いてくれる				
息子	62.8	71.9	81.2	82.3
娘	60.5	53.3	90.4	87.9
$\chi^2$ 値	n.s.	20.531**	9.854**	n.s.
私はその子の能力や努力を評価している／お父さん・お母さんは能力や努力をほめてくれる				
息子	89.7	79.7	89.0	82.5
娘	89.3	76.8	92.6	83.5
$\chi^2$ 値	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.

\*  $p < .05$ , \*\*  $p < .01$

それぞれの夫婦関係満足度との関連をみる。

### 3. 分析結果

#### (1) 父子関係と母子関係の違い

親からみた父子関係と母子関係を比較してみよう。親子関係に関する同じ項目について、父親が認識する父子関係と母が認識する母子関係に違いがあるかどうかをみてみた(図表-1)。「その子は私の心配事や悩みを聞いてくれる」と半数以上の母親が思っているのに対し、父親は17.4%にとどまっている。同じ内容について子どもがどのように考えているかという点、45.3%が「私は母親の心配事や悩みを聞いてあげている」と回答しているが、父親に対しては24.2%にとどまる。「その子は私の能力や努力を評価している」についても、母親では66.1%、父親59.4%と、父親よりも多く

の母親が子どもから評価されていると思っている。子どもからみると、父親を「えらい」と思っているのは80.9%、母親を「えらい」と思っているのは85.2%で、親が思うよりも子どもの方が親を高く評価している者が多い。しかし、父親と母親を比べれば、子どもからみても母親を評価している者の方が多い。「その子は自分のすることに文句や小言をいう」、「その子は自分いろいろと面倒をかける」「その子といるとイライラする」、「私はその子の心配事や悩み事を聞いてあげる」と思っているのも、父親よりも母親の方が多い。子どもからみた場合、「お父さん、お母さんはいろいろと面倒をかける」「一緒にいるとイライラす

る」については、父親と母親の間に差はみられない。「お父さん・お母さんは能力や努力をほめてくれる」について、親からみた場合、父親と母親の間に差はなかったが、子どもからみた場合、幾分、父親よりも母親は「ほめてくれる」と思っている者が多いようである。

親の側からみても子どもの側からみても、父親に比べて母親と子どもの関係の方が強い。とくに心配事や悩みを相談し合う相互の関係が母子の間に形成されているのに対して、父子間ではそのようなサポート的な関係は薄いと考えられる。

#### (2) 子どもの性別による父子関係・母子関係の違い

次に、親からみて子どもの性別により親子関係が異なるのかどうかをみてみよう(図表-2)。父親の回答に子どもの性別による違いが表れている

図表-3 性別・子の学齢別 父子関係と母子関係——親の回答、子の回答 (%)

	父・息子関係		父・娘関係		母・息子関係		母・娘関係	
	父の回答	息子の回答	父の回答	娘の回答	母の回答	息子の回答	母の回答	娘の回答
その子は私の心配事や悩みを聞いてくれる／お父さん・お母さんの心配事や悩みを聞いてあげる								
小学4-6年生	14.0	27.7	16.0	27.7	45.7	50.0	48.9	53.2
中学生	23.2	27.7	22.7	13.6	50.0	39.3	62.9	46.1
高校生	15.1	25.6	12.4	21.3	52.9	31.8	64.0	51.7
χ <sup>2</sup> 値	n.s.	n.s.	n.s.	5.389*	n.s.	6.206*	n.s.	n.s.
その子は私の能力や努力を評価している／お父さん・お母さんをえらいと思う								
小学4-6年生	61.3	83.9	59.6	85.1	59.6	86.0	77.7	90.4
中学生	58.9	81.1	60.2	82.8	58.0	86.5	67.4	87.4
高校生	61.2	74.1	55.1	77.5	62.8	74.4	73.0	85.4
χ <sup>2</sup> 値	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.
その子は私のすることに文句や小言をいう／お父さん・お母さんはあなたにいろいろと面倒をかける								
小学4-6年生	18.3	31.9	37.2	22.3	27.7	29.8	30.9	14.0
中学生	20.5	27.7	33.0	25.8	33.3	33.0	48.3	28.1
高校生	24.7	27.1	29.2	30.7	26.7	29.1	39.8	31.5
χ <sup>2</sup> 値	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	8.548*
その子は私にいろいろと面倒をかける／お父さん・お母さんは文句や小言をいう								
小学4-6年生	23.7	54.3	25.5	57.4	52.1	70.2	39.4	65.6
中学生	21.4	61.6	20.5	56.8	43.8	75.0	48.3	65.2
高校生	29.4	55.3	28.1	61.8	32.6	75.6	41.6	78.7
χ <sup>2</sup> 値	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	7.038*	n.s.	n.s.	n.s.
その子といるとイライラすることがある／お父さん・お母さんといるとイライラすることがある								
小学4-6年生	19.4	29.0	10.6	28.7	34.0	23.7	37.2	27.7
中学生	13.4	42.3	12.5	43.8	28.8	52.3	28.1	40.9
高校生	17.6	37.6	12.4	68.5	19.8	44.2	30.3	64.0
χ <sup>2</sup> 値	n.s.	n.s.	n.s.	29.555**	n.s.	17.766**	n.s.	25.051**
私はその子の心配事や悩みを聞いてあげる／お父さん・お母さんは心配事や悩みを聞いてくれる								
小学4-6年生	71.0	79.3	71.3	61.7	91.5	91.3	94.7	93.6
中学生	59.8	71.2	58.0	46.6	77.7	82.0	89.9	80.9
高校生	57.6	64.7	51.7	51.1	74.4	72.9	86.5	88.8
χ <sup>2</sup> 値	n.s.	n.s.	7.701*	n.s.	10.005**	10.235**	n.s.	7.036*
私はその子の能力や努力を評価している／お父さん・お母さんは能力や努力をほめてくれる								
小学4-6年生	91.4	87.2	96.8	88.3	89.4	92.6	95.7	91.5
中学生	88.4	82.9	86.4	71.9	86.6	83.8	91.0	83.1
高校生	89.4	67.4	84.3	69.3	91.9	69.8	91.0	75.3
χ <sup>2</sup> 値	n.s.	11.991**	8.696*	10.918**	n.s.	16.345**	n.s.	8.708*

\* p < .05, \*\* p < .01

子どもからみた父子関係は、親からみた関係とは若干異なっている。父親は娘と一緒にでも息子と一緒にでも「イライラする」割合は低い（息子に「イライラする」16.6%、娘に「イライラする」11.8%）、子どもは父親と一緒にいると「イライラする」ことが多く、それは息子の場合（36.7%）よりも娘の場合（46.7%）に高い。「お父さんは心配事や悩みを聞いてくれる」でも、父親の回答には子どもの性別による違いは表れていないが、「父親は聞いてくれる」と思っているのは、息子では71.9%であるのに対し、娘では53.3%にすぎない。

子どもの性別による母子関係の違いという点については、母親の回答では子どもの性別による違いが4項目に表れていたのに対し、子どもの回答では1項目に違いがみられたにすぎない。「その子は私の心配事や悩みを聞いてくれる」については、母親も娘が「聞いてくれる」と回答した者の割合が高かったように、子どもの回答でも娘の場合50.4%が「聞いてあげている」と回答しているのに対し、息子は40.5%にとどまっている。

のは、「その子は私のすることに文句や小言をいう」だけであり、娘から文句や小言をいわれているようである。母親からみた母子関係に関しては、「その子は自分の心配事や悩みを聞いてくれる」のは息子で49.5%、娘では58.5%で、娘に対する回答の方が「聞いてくれている」と思っている者の割合が高い。「その子は私の能力や努力を評価している」、「その子は自分のすることに文句や小言をいう」、「自分はその子の心配事や悩み事を聞いてあげる」でも娘の方が母親との関係が強い。

全体的な傾向としては、母親は娘との関係をより強く認識しているのに対して、子どもの方はそのような性別による親との関係の認識についての差が少ない。父子関係では、逆に、父親は子の性別によって父子関係の違いを見いだしていないの

図表-4 お父さん・お母さんは心配事や悩みを聞いてくれる  
——子の回答 (%)

		父			
		いいえ	はい	全体	
母	息子	いいえ	14.6	3.1	17.7
		はい	13.5	68.8	82.3
		全体	28.1	71.9	100.0
	$\chi^2 = 90.155^{**}$				
	娘	いいえ	11.5	0.7	12.2
		はい	35.2	52.6	87.8
全体		46.7	53.3	100.0	
$\chi^2 = 33.756^{**}$					

\*\* p < .01

図表-5 お父さん・お母さんは能力や努力をほめてくれる  
——子の回答 (%)

		父			
		いいえ	はい	全体	
母	息子	いいえ	12.4	5.2	17.5
		はい	7.9	74.6	82.5
		全体	20.3	79.7	100.0
	$\chi^2 = 96.843^{**}$				
	娘	いいえ	11.1	5.2	16.2
		はい	12.2	71.6	83.8
全体		23.2	76.8	100.0	
$\chi^2 = 59.442^{**}$					

\*\* p < .01

に対し、子どもは性別によって父子関係を異なるものと捉えている傾向がある。

### (3) 子どもの学齢の上昇と父子関係・母子関係の変化

父子関係、母子関係ともに、子どもの成長によって変化してくると思われるが、相対的にみて、父子関係についての父親の認識は、子どもの学齢による違いはさほどみられない。父親が「その子の心配事や悩みを聞く」と回答している割合は、子どもが女の子の場合に学齢により有意に低下している。父親が「その子の能力や努力を評価している」と回答している割合もまた、子どもが女の子の場合にのみ、学齢により有意に低下している。

父親とは異なり、母親による母子関係についての認識は子どもの学齢によって5項目で異なっている。子どもの学齢による違いがみられなかったのは、「その子は私の能力や努力を評価してくれている」と「私は子どもの能力や努力を評価している」である。「その子は私の心配事や悩みを聞

いてくれる」と回答している者は、子どもが小学校高学年の時には子どもの性別にかかわらず、半数に満たない程度であるが、子どもが女の子である場合には、子どもの学齢が上がるにつれて、「心配事や悩みを聞いてくれる」と回答する割合が上昇する。「その子は私のすることに文句や小言をいう」は、子どもが女の子の場合のみ、学齢による違いがみられ、子どもが中学生の時に子どもが文句をいうと回答している者が多い。逆に、「その子は私にいろいろと面倒をかける」は子どもが女の子の場合、学齢が上昇しても変化はみられないが、子どもが男の子の場合は学齢の上昇とともに低下している。母親が子どもに対して「イライラする」割合も、子どもが男の子の場合には学齢の上昇とともに低下している。「私は子どもの心配事や悩みを聞く」については、子どもが女の子である場合、子どもの学齢が高くなっても「聞く」と回答する母親の割合は高いままであるが、子どもが男の子の場合、学齢の上昇とともに低下している。

子どもからみた父親との関係、母親との関係は、学齢によってかなり異なっている。「お父さんの心配事や悩みを聞く」は、子どもが女の子だった場合、中学生の時に極端にその割合が低い。「お父さん」とイライラする」は、小学校高学年の時は男女に違いはなく、学齢が高くなるにつれ、イライラする娘の割合が極端に高くなる。娘よりも息子の方が「お父さんは心配事や悩みを聞いてくれる」と回答していたが、学齢の上昇とともにその割合は低下している。「お父さんは能力や努力をほめてくれる」と思っている者は、子どもの性別にかかわらず、学齢が高くなると少なくなっている。

次に母親との関係をみてみよう。「母の心配事や悩みを聞く」は、子どもが小学校高学年の時は子どもの性別による違いはみられないが、息子の場合、学齢の上昇にともなって低下していく。「お母さんはえらいと思う」割合は、息子では学齢とともに低下している。娘が小学校高学年の時には「お母さんは面倒をかける」と思っている割合は息子よりも低い学齢の上昇とともに上昇

図表-6 説明変数

	回答者	平均値	標準偏差
娘ダミー	母	0.482	0.500
学齢	母		
(基準)小学生			
中学生ダミー		0.356	0.479
高校生ダミー		0.310	0.463
子ども人数	母	2.135	0.710
父年取 <sup>1)</sup>	父	750.886	274.265
母年取 <sup>1)</sup>	母	118.944	220.398
世帯年取 <sup>1)</sup>	母	874.586	383.575
父学歴	父		
(基準)中学・高校・専門学校卒			
短大卒ダミー		0.022	0.145
4年制大学卒ダミー		0.559	0.497
母学歴	母		
(基準)中学・高校・専門学校卒			
短大卒ダミー		0.231	0.422
4年制大学卒ダミー		0.219	0.414
父就業形態	父		
(基準)フルタイム			
無職・パートダミー		0.023	0.150
自営ダミー		0.220	0.415
母就業形態	母		
(基準)フルタイム			
無職ダミー		0.367	0.482
パートダミー		0.356	0.479
自営ダミー		0.163	0.370
父朝食回数 <sup>2)</sup>	父	2.321	2.646
父夕食回数 <sup>2)</sup>	父	3.167	2.290
父帰宅時間	父		
(基準)9時以降帰宅・シフト・不規則			
父7時帰宅ダミー		0.280	0.449
父8時帰宅ダミー		0.181	0.385
父9時帰宅ダミー		0.165	0.371
父就寝前の過ごし方ダミー <sup>3)</sup>	父	0.197	0.398
父現在子育て <sup>4)</sup>	父	7.425	8.556
父0-2歳時育児 <sup>5)</sup>	父	56.497	37.335
父3-6歳時育児 <sup>6)</sup>	父	89.531	56.263
父母の夫婦関係満足度 <sup>7)</sup>	父・母		
(基準)父母とも満足ではない			
父母とも満足		0.589	0.493
父のみ満足		0.163	0.370
母のみ満足		0.080	0.271

注: 1) 選択肢の中央値を代入

2) 1週間に家族全員で朝食あるいは夕食をとる回数

3) 「一人で過ごす」= 1, 「夫婦で、家族全員で、子どもと過ごす」= 0

4) 「子どもの世話、しつけ、勉強・進路指導」を行う頻度、月当たり日数に変換

5) 対象子が0-2歳の時、「その子を風呂に入れる」「その子に食事を食べさせる」「その子と一緒に遊ぶ」「その子の身の回りの世話をする」「いけないことをしたときにきちんと叱る」の5項目それぞれについての頻度を月当たり日数に変換し合計 ( $\alpha = .85$ )6) 対象子が3-6歳の時、「その子と一緒に風呂に入る」「その子と一緒に夕食を取る」「その子と一緒に遊ぶ」「その子の身の回りの世話をする」「その子を幼稚園・保育園に送っていく」「その子にその日の出来事を聞いてあげる」「その子の疑問にきちんと答える」「いけないことをしたときにきちんと叱る」の8項目それぞれについての頻度を月当たり日数に変換し合計 ( $\alpha = .89$ )

7) 「満足」= 「満足」、「まあ満足」、「満足ではない」= 「やや不満」、「不満」、「どちらともいえない」、「わからない」とし、父回答、母回答の組み合わせ

し、高校生の時には息子がそう思っている割合と、ほぼ同じ程度になる。「お母さんは文句や小言を言う」は、娘の場合、学齢の上昇とともに高くなっている。「お母さんといるとイライラする」は子どもの性別にかかわらず、学齢の上昇とともにイライラする子どもの割合は高くなる。特に娘が高校生の場合にイライラしている割合が高い。「お母さんは心配事や悩みを聞いてくれる」と思っている者の割合は、息子の場合、学齢とともに低下し、娘の場合中学生の時に最も低い。「お母さんは能力や努力をほめてくれる」は、子どもの性別にかかわらず、学齢の上昇とともに低下している。

#### (4) 父親と母親は補完的な関係なのか

父子関係、母子関係それぞれにみてきたが、以降の節では「暖かい養育態度」としての「お父さん／お母さんは心配事や悩みを聞いてくれる」「お父さん／お母さんは能力や努力をほめてくれる」に焦点をあててみよう。「暖かい養育態度」は母親が示していれば、父親が示さない、あるいは母親が示さない場合は父親が示すなど、両者は補完的

図表-7 2項ロジスティック回帰分析による予備的分析の結果表<sup>1)</sup>

	父子関係(子の回答)① <sup>2)</sup>	父子関係(子の回答)② <sup>3)</sup>
娘ダメー	$\chi^2=20.650^{**}$	$\chi^2=.729$
年齢	$\chi^2=7.135^*$	$\chi^2=20.841^{**}$
(基準)小学生		
中学生ダメー		
高校生ダメー		
子ども人数	$\chi^2=.265$	$\chi^2=.630$
父年収	$\chi^2=1.568$	$\chi^2=1.010$
母年収	$\chi^2=1.144$	$\chi^2=1.197$
世帯年収	$\chi^2=0.112$	$\chi^2=.590$
父学歴	$\chi^2=2.087$	$\chi^2=1.930$
(基準)中学・高校・専門学校卒		
短大卒ダメー		
4年制大学卒ダメー		
母学歴	$\chi^2=5.618$	$\chi^2=3.244$
(基準)中学・高校・専門学校卒		
短大卒ダメー		
4年制大学卒ダメー		
父就業形態	$\chi^2=5.562$	$\chi^2=.185$
(基準)フルタイム		
無職・パートダメー		
自営ダメー		
母就業形態	$\chi^2=1.779$	$\chi^2=3.291$
(基準)フルタイム		
無職ダメー		
パートダメー		
自営ダメー		
父朝食回数	$\chi^2=4.238^*$	$\chi^2=2.001$
父夕食回数	$\chi^2=.046$	$\chi^2=.025$
父帰宅時間	$\chi^2=3.339$	$\chi^2=5.296$
(基準)9時以降帰宅・シフト・不規則		
父7時帰宅ダメー		
父8時帰宅ダメー		
父9時帰宅ダメー		
父就寝前の過ごし方ダメー	$\chi^2=2.562$	$\chi^2=1.198$
父現在子育て	$\chi^2=11.180^{**}$	$\chi^2=2.808$
父0-2歳時育児	$\chi^2=4.528^*$	$\chi^2=5.633^*$
父3-6歳時育児	$\chi^2=5.171^*$	$\chi^2=5.628^*$
父母の夫婦関係満足度	$\chi^2=24.474^{**}$	$\chi^2=22.422^{**}$
(基準)父母とも満足ではない		
父母とも満足		
父のみ満足		
母のみ満足		

\* p < .05, \*\* p < .01

注:1) 説明変数を1つのみ投入した18の2項ロジスティック回帰分析の結果のうち、 $\chi^2$ 値のみを表示した。

2) 父子関係(子の回答)①:「お父さんは心配事や悩みを聞いてくれる」(1=「はい」、0=「いいえ」)

3) 父子関係(子の回答)②:「お父さんは能力や努力をほめてくれる」(1=「はい」、0=「いいえ」)

な関係にあるのだろうか。図表-4では、父親が子どもの「心配事や悩みを聞く」場合には、母親も「聞く」というケースが息子の回答で68.8%、娘の回答で52.6%、父親が「聞いてくれない」場合には母親も「聞いてくれない」というのは、息子の回答で14.6%、娘11.5%となっている。図表-5に

おいても、母親が「ほめてくれない」場合に父親が「ほめてくれる」のではなく、両者とも「ほめてくれない」傾向が読みとれる。つまり、父親と母親の「暖かい養育態度」は、補完的な関係にあるわけではないことが分かる。

### (5) 子どもは何によって父親の「暖かい養育態度」を認識するか

父親の「暖かい養育態度」の説明変数を図表-6に示した。発達心理や教育心理などの研究領域で一般的にいられているように、親子関係の変化は子どもの発達の段階でもあるので、年齢(年齢)により大きく異なって当然である。また、社会化の段階で男女異なる親子関係となることも知られているため、子どもの性別も説明変数とした。その他、子どもの人数も親子関係と関わる可能性があるので説明変数に含めた。家族の属性要因として、経済的変数(父年収、母年収、世帯年収)、ライフスタイルに関わる変数

(父学歴、母学歴、父就業形態、母就業形態)を含めた。

父親の「暖かい養育態度」を子どもに示すことをより可能にするのは一緒にいる時間の有無であると思われるので、1週間に家族全員で食事をとる回数、夕食をとる回数、父親の帰宅時間、父親

図表-8 2項ロジスティック回帰分析——父子関係(子の回答)①

	(1)			(2)			(3)			(4)			(5)			(6)			(7)			(8)			
	B	SE	Exp(B)	B	SE	Exp(B)	B	SE	Exp(B)	B	SE	Exp(B)	B	SE	Exp(B)	B	SE	Exp(B)	B	SE	Exp(B)	B	SE	Exp(B)	
(基準:息子)																									
娘ダミー	-0.829	0.181	0.436**	-0.824	0.184	0.445**	-0.848	0.183	0.428**	-0.830	0.183	0.436**	-0.847	0.184	0.429**	-0.894	0.187	0.409**	-0.900	0.189	0.406**	-0.908	0.188	0.403**	
(基準:小学生)																									
中学生ダミー	-0.521	0.221	0.594*	-0.500	0.225	0.581*	-0.414	0.225	0.661	-0.498	0.223	0.608*	-0.522	0.223	0.593*	-0.553	0.227	0.587*	-0.528	0.228	0.590*	-0.431	0.231	0.650	
高校生ダミー	-0.572	0.227	0.564*	-0.483	0.232	0.572*	-0.448	0.232	0.639	-0.512	0.229	0.559*	-0.536	0.231	0.585*	-0.597	0.233	0.550*	-0.575	0.236	0.563*	-0.480	0.238	0.619*	
父朝食回数				0.060	0.035	1.061																			
父現在子育て							0.034	0.012	1.034**													0.029	0.012	1.030*	
父0-2歳時育児										0.005	0.003	1.005													
父3-6歳時育児													0.004	0.002	1.004*				0.002	0.002	1.002				
(基準:父母とも満足ではない)																									
父母とも夫婦関係満足																1.232	0.250	3.428**	1.147	0.258	3.148**	1.190	0.252	3.286**	
父のみ夫婦関係満足																0.603	0.307	1.827*	0.527	0.311	1.694	0.642	0.311	1.901*	
母のみ夫婦関係満足																0.804	0.385	2.235*	0.694	0.390	2.001	0.717	0.386	2.048	
定数	1.322	0.195	3.753**	1.330	0.234	3.280**	1.020	0.220	2.774**	1.050	0.242	2.858**	1.018	0.242	2.767**	0.501	0.269	1.651	0.374	0.374	1.453	0.257	0.287	1.293	
-2 log likelihood	707.322			703.947			695.777			695.626			689.870			680.486			667.609			671.646			
$\chi^2$	28.645**			29.110**			37.279**			31.445**			33.367**			55.482**			55.628**			61.410**			
自由度	3			4			4			4			4			6			7			7			

\* p < .05, \*\* p < .01

注:父子関係(子回答)①:「お父さんは心配事や悩みを聞いてくれる」(1 = 「はい」, 0 = 「いいえ」)

図表-9 2項ロジスティック回帰分析——父子関係(子の回答)②

	(1)			(2)			(3)			(4)			(5)			(6)			(7)					
	B	SE	Exp(B)	B	SE	Exp(B)	B	SE	Exp(B)	B	SE	Exp(B)	B	SE	Exp(B)	B	SE	Exp(B)	B	SE	Exp(B)	B	SE	Exp(B)
(基準:小学生)																								
中学生ダミー	-0.705	0.280	0.494*	-0.673	0.283	0.510*	-0.689	0.282	0.502*	-0.712	0.282	0.490*	-0.718	0.286	0.488*	-0.710	0.287	0.492*	-0.727	0.287	0.483*			
高校生ダミー	-1.199	0.276	0.302**	-1.151	0.280	0.316**	-1.152	0.279	0.316**	-1.203	0.279	0.300**	-1.240	0.283	0.289**	-1.208	0.286	0.299**	-1.261	0.286	0.283**			
父現在子育て				0.011	0.013	1.011																		
父0-2歳時育児							0.006	0.003	1.006*							0.005	0.003	1.005						
父3-6歳時育児										0.004	0.002	1.005*							0.003	0.002	1.003			
(基準:父母とも満足ではない)																								
父母とも夫婦関係満足													1.200	0.262	3.320**	1.149	0.268	3.155**	1.102	0.272	3.011**			
父のみ夫婦関係満足													1.184	0.359	3.269**	1.154	0.362	3.171**	1.136	0.365	3.115**			
母のみ夫婦関係満足													0.506	0.407	1.659	0.450	0.411	1.568	0.415	0.415	1.514			
定数	1.197	0.223	7.174**	1.858	0.253	6.410**	1.618	0.275	5.042**	1.586	0.275	4.883**	1.107	0.289	3.026**	0.880	0.323	2.410**	0.901	0.320	2.463**			
-2 log likelihood	567.584			566.603			556.406			553.273			544.823			535.910			534.572					
$\chi^2$	20.481**			21.021**			24.072**			25.744**			43.242**			44.568**			44.446**					
自由度	2			3			3			3			5			6			6			6		

\* p < .05, \*\* p < .01

注:父子関係(子回答)②:「お父さんは能力や努力をほめてくれる」(1 = 「はい」, 0 = 「いいえ」)

の就寝前の過ごし方を説明変数とした。さらに「暖かい養育態度」の行動面として、3時点(現在、対象子が0~2歳の時、3~6歳の時)での子育てへの参加を変数とした。そして、父親、母親それぞれの夫婦関係の満足度をクロスさせたものを説明変数とした。

「お父さんは心配事や悩みを聞いてくれる」「お父さんは能力や努力をほめてくれる」を被説明変数として、これらの変数を2項ロジスティック回

帰分析に投入した(図表-7)。「お父さんは心配事や悩みを聞いてくれる」は、娘ダミー、学齢、父朝食回数、現在の子育て、0~2歳時の子育て、3~6歳時の子育て、父母の夫婦関係満足度が有意な説明変数であった。「お父さんは自分の能力や努力をほめてくれる」は、学齢、父朝食回数、0~2歳時の子育て、3~6歳時の子育て、父母の夫婦関係満足度が有意な説明変数であった。

次に、「お父さんは心配事や悩みを聞いてくれ



る」については、娘ダミー、学齢を基本とし他の説明変数を投入し(図表-8)、「お父さんは能力や努力をほめてくれる」については、学齢を基本的には投入してその他の説明変数をさらに投入した(図表-9)。その結果、モデル(8)に示されているとおり、「お父さんは心配事や悩みを聞いてくれる」に有意な影響を持った変数は、子どもの性別、学齢、父現在子育て、夫婦関係満足であった。娘ダミーの係数は負となっているから、息子に比べて娘は「お父さんは心配事や悩みを聞いてくれる」とは思っていないことがわかる。同様に、高校生ダミーも負の係数であるから、高校生は小学生に比べて「お父さんは心配事や悩みを聞いてくれる」とは思っていない。子どもの性別や学齢の影響を除いても、父親の現在の子育ての変数は正の値をとっており、父親が現在子育てに関わっている方が、「お父さんは心配事や悩みを聞いてくれる」とは思っている。父母とも夫婦関係に満足ではない場合に比べて、父母とも夫婦関係に満足の場合、父親のみ夫婦関係に満足の場合に、子どもは「お父さんは心配事や悩みを聞いてくれる」とは思っている。特に、父母とも夫婦関係に満足であることの影響は大きい。

「お父さんは能力や努力をほめてくれる」の分析結果については図表-9に示している。図表-8と同様に、学齢を基本として、その他の説明変数を投入していったところ、最終的に有意な変数は、学齢と夫婦関係満足であった。モデル(7)をみると、小学生より高校生が、「お父さんは能力や努力をほめてくれる」とは思っていない。子どもの学齢の影響を除いても、父母とも夫婦関係に満足ではない場合に比べて、父母とも夫婦関係に満足の場合、父親のみ夫婦関係に満足の場合に、子どもは「お父さんは能力や努力をほめてくれる」と思っている。特に、父母とも夫婦関係に満足であることの影響は大きい。

子どもの父親の「暖かい養育態度」の認識に対する、対象子が幼いときの父親の子育てに関する変数の影響は、図表-8モデル(4)では子どもの学齢により、モデル(7)では父母の夫婦関係満足度により有意ではなくなった。同様に、図表-9のモデ

ル(6)、モデル(7)でも、対象子が幼いときの父親の子育てに関する変数の影響は夫婦関係満足度の投入により有意ではなくなった。つまり、子どもが幼いときの父親の子育ては、父母の夫婦関係を良好にし、良好な夫婦関係<sup>3)</sup>が父親の「暖かい養育態度」への子どもの認識を高め、言い換えれば父子関係を良好にしている。

#### 4. 結びにかえて

本稿の分析では、第1に、親の側からみても子どもの側からみても、そして性別にかかわらず、父親に比べて母親と子どもの関係の方が強いことが再確認された。第2に、母親は娘との関係をより強く認識しているのに対して、娘と息子はほぼ同様に母親との関係の深さについて認識している。子どもが娘であっても息子であっても、父親は父子関係について同じような認識を抱いているが、子ども側からみるとそれは異なっている。つまり、息子に比べて娘は、父親との関係をよい関係にあると認識している者は相対的に少ないのである。第3に、子どもの学齢が上昇すると、特に親の「暖かい養育態度」に対する子どもの認識が低下する。父親の「暖かい養育態度」に対する子どもの認識は、学齢にかかわらず、母親に比べて低いので、学齢が上昇することにより、さらに低下することになる。悩み事の相談相手は、成長とともに親から同輩集団へと移行していくのは当然ではある。しかし、この質問項目への回答が悩みを相談するか否かの実態ではなく、相談しようと思えばできるかどうかを捉えているとするならば、子どもが高校生であっても必要なサポートであろう。「お父さんは能力や努力をほめてくれる」の「ほめてくれる」という表現は、高校生に対する質問としてやや適切さを欠いているかもしれないが、親が自分を肯定しているとの実感を含むのであれば、これもまた高校生にとって重要なサポートであるだろう。

第4に、「暖かい養育態度」は父親と母親とで補完的な関係にはなく、特定の状況で生じやすいという可能性が示唆された。第5に、その特定の

状況というのは、子どもが幼少時の父親の子育てを通して形成された良好な夫婦関係であり、実際の父親の子育てのかかわりとともに、良好な夫婦関係の中で、父親の「暖かい養育態度」が子どもに認識されている。

現代のように家族規模が小さい場合、親子関係と夫婦関係は強く影響しあう。たとえば、いわゆる「父親不在」の状況にあったとしても、家族成員が多く、父親以外の家族成員の関係がサポートタイプな関係にあれば、家族の凝集性は高まることはあるかもしれない。しかし、現在のように、夫婦と子どもが1~2人の3~4人家族のような規模では、夫婦関係は親子関係に反映されるのも当然かもしれない。特に学齢が上昇し成長するにつれ、心理的にも行動面でも親離れしていく子どもにとって、幼少時の父親の子育てやそれがもたらす良好な夫婦関係は、父親の「暖かい養育態度」の認識へと結びつく。父親の子育てへの参加は今後さらに重要になると思われる。

〔謝辞〕本稿執筆にあたり有益なコメントをくださった施利平氏（明治大学）ならびに田中慶子氏（東京都立大学大学院）に謝意を表したい。

## 注

- 1) ここでの夫婦関係とは離婚したか否かをさすのではない。離婚したか否かにかかわらず、父親と母親の関係や家族の雰囲気、家族の凝集性と、子どもの抑うつ度や発達に関心が向けられている。
- 2) 「現代核家族調査」では、親子関係を測る項目として、このほかに、会話の頻度、レジャーの過ごし方などもたずねているが、親子で会話をするか、レジャーを共にするかは、現在の親子関係の結果としても考えられるため、今回の分析からは除いた。ただし、「暖かい養育態度」が実際の生活の中では、会話やレジャーの中で示されていることには留意したい。一方、本稿で取り上げた父親の帰宅時間、食事を共にする回数などは、親子関係の結果というよりも、その家族のライフスタイルを示すものと考えた。
- 3) ここでは、夫婦ともに夫婦関係に満足している場合を良好な夫婦関係としている。しかし、厳密に言えば、夫婦関係の良好度の定義やそれを測るスケールは、夫婦関係満足度とは別のものである。

## 文献

石川周子, 2003, 「父親の養育行動と子どものディストレス」 本田由紀編『女性の就業と親子関係——母親た

ちの階層戦略』勁草書房, 133-147.

石川実, 1994, 「〈父性不在〉論と父子関係の実態——理論的検討とひとつの調査」『都市問題研究』41(7): 118-133.

伊藤公雄, 1999, 「夫婦のディスコミュニケーションはなぜ起こるか」『アドバタイジング』44(4): 22-27.

岩井紀子, 1997, 「子どもの社会化と親子関係」『現代家族の社会学——脱制度化時代のファミリー・スタディーズ』有斐閣, 153-173.

大塚健樹, 1989, 「父子関係を中心とした親と子の相互交渉」『生活学園短期大学紀要』12: 7-20.

賀茂美則, 2004, 「親子関係の質とその決定要因」(渡辺ほか編 2004: 244-259).

木田淳子・大谷直美, 1993, 「中学生の父子関係と価値形成」『大阪教育大学紀要 第II部門 社会科学・生活科学』41(2): 57-72.

古澤頼雄, 1998, 「青年・父親・母親三者関係における自己有能感に関する日米比較」『東京女子大学比較文化研究所紀要』59: 89-113.

末盛慶, 2004, 「父親と子どもの接触頻度の規定要因」(渡辺ほか編 2004: 231-243).

菅原ますみ・八木下暁子・詫摩紀子・小泉智恵・瀬山山葉矢・菅原健介・北村俊則, 2002, 「夫婦関係と児童期の抑うつ傾向との関連——家族機能および両親の養育態度を媒介として」『教育心理学研究』50: 129-140.

杉岡直人, 1984, 「父子関係と子供の社会化」『北星論集』21: 109-138.

冬木春子, 1997, 「父役割が父親の役割満足感と役割葛藤に与える影響」『家族関係学』16: 25-38.

前出朋美・島谷まき子, 2004, 「家族イメージ法の分析指標の検討——肯定的家族観・父子関係・母子関係・両親関係との関連」『學苑』761: 40-47.

牧野暢男, 1996, 「父親にとっての子育て体験の意味」牧野カツコ・中野由美子・柏木恵子編『子どもの発達と父親の役割』ミネルヴァ書房, 50-58.

松井洋, 2001, 「日本の中学生の親子関係」『川村学園女子大学研究紀要』12(7): 171-180.

渡辺秀樹・稲葉昭英・嶋崎尚子編, 2004, 『現代家族の構造と変容——全国家族調査[NFRJ98]による計量分析』東京大学出版会.

Amato, P. R., 1994, "Father-Child Relations, Mother-Child Relations, and Offsprings Psychological Well-Being in Early Adulthood," *Journal of Marriage and the Family*, 56: 529-543.

Fincham, Frank D., 1998, "Child Development and Marital Relations," *Child Development*, 69: 543-574.

ながい・あきこ 財団法人 家計経済研究所 次席研究員。主な論文に「男性の育児参加」(渡辺秀樹ほか編『現代家族の構造と変容』東京大学出版会, 2004)。家族社会学専攻。